

目次

はじめに.....	i
1. DAQSTANDARDでできること、できないこと	1-1
1.1 DAQSTANDARDで、できること	1-2
1.2 DAQSTANDARDでは、できないこと	1-4
2. CDを紛失した・最新バージョンに更新したい.....	2-1
3. 記録データを見たい.....	3-1
4. 連続したデータを接続して見たい.....	4-1
5. Excelファイルに変換したい.....	5-1
6. 波形表示を印刷したい.....	6-1
6.1 ヘッダ情報を選んで印刷したい	6-1
6.2 波形表示を部分的に印刷したい	6-2
7. いつも同じ表示でデータを見たい.....	7-1
8. Ethernet接続で設定を受信したい	8-1
9. 1-5Vレンジの設定をしたい.....	9-1
10. 表示データ記録の設定をしたい.....	10-1
11. 指定時刻にデータファイルをセーブしたい.....	11-1
12. 流量積算を設定したい (/M1 演算機能付き)	12-1
13. データファイルにサインインしたい	13-1

はじめに

本書は、記録計の標準添付ソフトウェア DAQSTANDARD（形名：DXA120）について、お客様からお問い合わせの多かった内容とその回答をまとめた資料です。

DAQSTANDARD の操作入門ガイドとしてご利用ください。

なお、使用方法の詳細については、ソフトウェアのヘルプメニューから取扱説明書を参照することができます。

対象製品

DXA120 DAQSTANDARD

- ・ ハードウェア設定
記録計の設定データを作成するためのソフトウェアです。
- ・ データビューア
記録計の測定データを表示させるためのソフトウェアです。

設定の操作説明には DX1000、DX2000 の記録計を使用しています。

ご注意

- ・ 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審の点や誤りなどお気づきのことがありましたら、お手数ですが、当社支社・支店・営業所までご連絡ください。
- ・ 本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製することは禁止されています。

商標

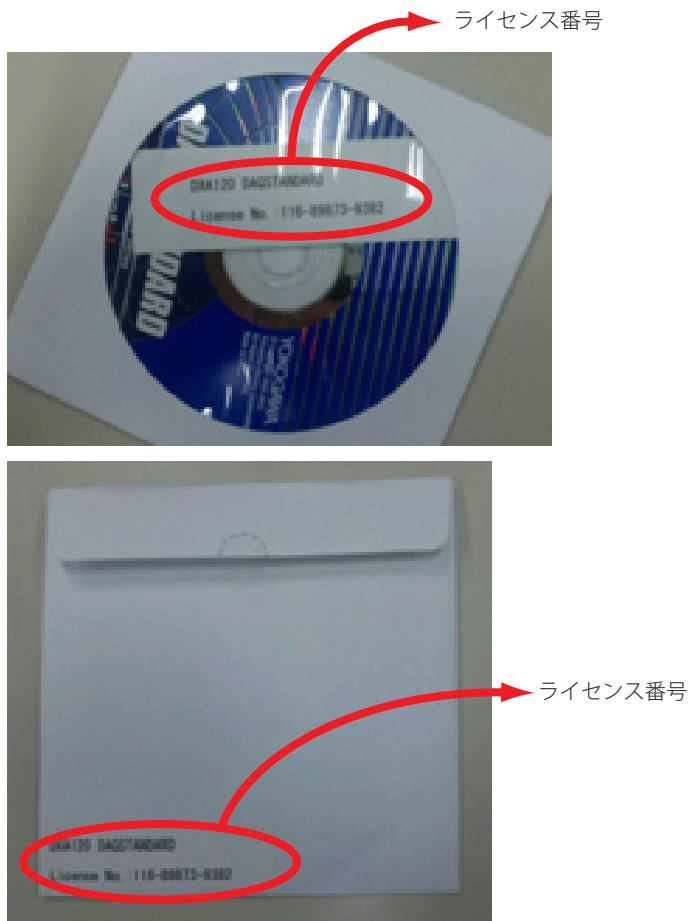
- ・ 本書で使用する当社製品名またはブランド名は、当社の商標または登録商標です。
- ・ Microsoft、および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Adobe、および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- ・ 本書では各社の登録商標または商標には、™マーク、® マークは表示していません。
- ・ 本書で使用する各社製品名は、各社の商標、または登録商標です。

本書の説明範囲

- ・ 本書では、Windows オペレーティングシステム (OS) の基本的な操作については説明していません。OS の基本的な操作については、それぞれのユーザズガイドなどをお読みください。

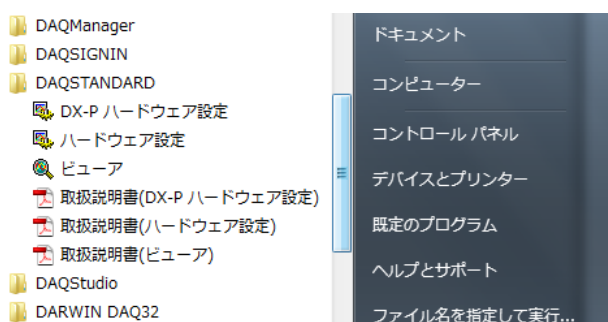
1. DAQSTANDARDでできること、できないこと

DAQSTANDARDは、ペーパレスレコーダDXシリーズ（DX1000やDX2000など）、MVシリーズ（MV1000やMV2000など）、および、CXシリーズ（CX1000やCX2000など）に標準添付されたソフトウェアです。



プログラムのスタート画面例

Windows 7



Windows XP



1.1 DAQSTANDARDで、できること

DAQSTANDARDは次の3つのソフトウェアで構成されています。

- ・ビューア
- ・ハードウェア設定
- ・DX-Pハードウェア設定（記録計DX100P/DX200P専用のハードウェア設定）

これらのソフトウェアで「できること」を以下に簡単に記します。

ハードウェア設定

「ハードウェア設定」ソフトウェアでは、記録計本体の設定データファイルを作成することができます。（本ソフトウェアを使用せずに、記録計本体のキー操作で直接設定することもできます。）

・ 設定ファイルを開く

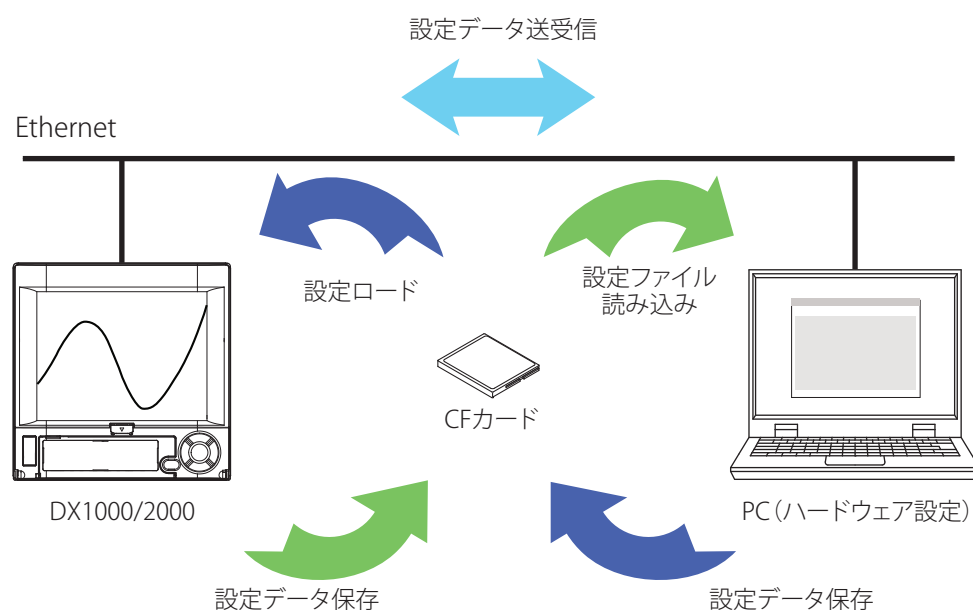
記録計からCFカードに設定セーブしたファイルを開きます。通信環境があれば直接、設定を受信することも可能です。

・ 設定ファイルを編集する

測定チャンネルのレンジ設定、記録機能の設定、画面設定、イベントアクション、付加機能の設定（演算、通信など）

- ・ 作成した設定ファイルはCFカードに保存し、記録計本体で設定ロードできます。また通信環境があれば直接、通信で設定を送信することも可能です。
- ・ DX100P、DX200Pの設定は「DX-Pハードウェア設定」で行います。

設定の流れ



ビューア

「ビューア」ソフトウェアでは、記録計の測定データをPCに表示させることができます。

- **データを確認する**

トレンド波形、デジタル、サーキュラ、アラームを専用のウィンドウでそれぞれ表示することができます。

- **データを見やすくする**

表示グループの編集、連続データの接続表示、表示テンプレートの作成ができます。

- **印刷する**

表示画面をプリンタへ印刷することができます。範囲指定による印刷も可能です。

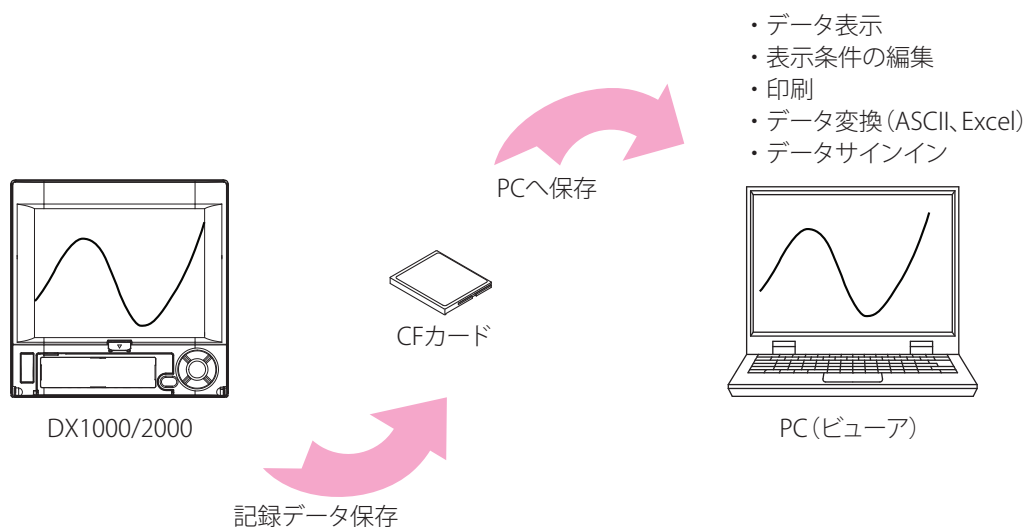
- **変換する**

記録データをASCII、Excel、またはLotusの各ファイル形式へ変換することができます。

- **サインインする（本体が付加仕様、/AS付きDXの場合）**

拡張セキュリティ機能付きのデータファイル（拡張子*.DSD、*.DBD、*.DSE、*.DBE）にサインインできます。

操作の流れ



1.2 DAQSTANDARDでは、できないこと

DAQSTANDARDでは以下の機能はサポートしていません。

- 通信経路によるモニタ機能
別売ソフトGA10、またはWEBブラウザ表示で行います。
- 通信経路によるデータ収集
別売ソフトGA10、またはFTP通信によるファイル転送で行います。
- DX1000、DX2000のカスタム画面（オリジナルのモニタ画面）の作成
別売ソフトDAQStudio（DXA170）で行います。
- データファイル群から『日時』『アラーム』『タグなどの文字列』の検索で呼び出す
別売ソフトDAQManager、またはユニバーサルビューアで行います。

2. CDを紛失した・最新バージョンに更新したい

DAQSTANDARDのCD-ROMを紛失した場合や、ご使用のソフトウェアのバージョンを更新したい場合は、弊社ホームページから最新版をダウンロードしてお使いいただくことができます。なお、インストール時にはライセンス番号の入力が必要となります。

- ・ ライセンス番号の紛失に備え、下記ダウンロードページに専用のライセンス番号へのリンクを公開しております。「ライセンス番号を紛失された方はこちら」という文字列をクリックしてください。
- ・ PC1台につき1ライセンスが必要です。追加でご使用いただく場合は、新たにDAQSTANDARDをお買い求めください。

DAQSTANDARDダウンロードページ

<https://y-link.yokogawa.com/YL007/>

YOKOGAWA  表示言語 日本語

Y-LINK ID パスワード ログイン ユーザ登録 ユーリンクとは? ID/パスワードをお忘れの場合

ホーム 製品一覧 ドキュメントライブラリ **ソフトウェアダウンロード** お問い合わせ 海外販売拠点

ソフトウェアダウンロード

キーワードを入力し検索するか、プルダウンより製品を選択してください。 (*)

キーワード 検索

製品カテゴリ

製品シリーズ/モデル

ソフトウェアの種類

[検索履歴について](#) [個人情報保護方針](#) [サイトご利用条件](#) © Copyright Yokogawa Electric Corporation

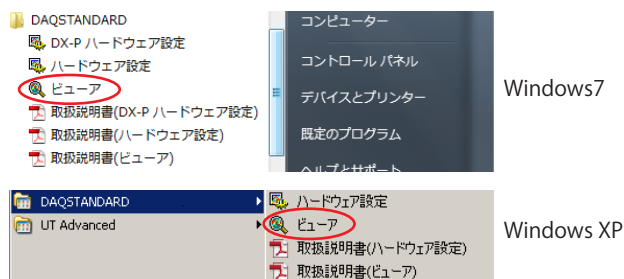
[キーワード] に「DXA120」と入力して [検索] をクリックしてください。
DAQSTANDARD (DXA120) のダウンロードページが表示されます。

3. 記録データを見たい

「ビューア」で、記録データを表示させることができます。

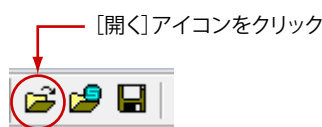
操 作

1. [スタートメニュー]-[プログラム]-[DAQSTANDARD]-[ビューア]を選択します。



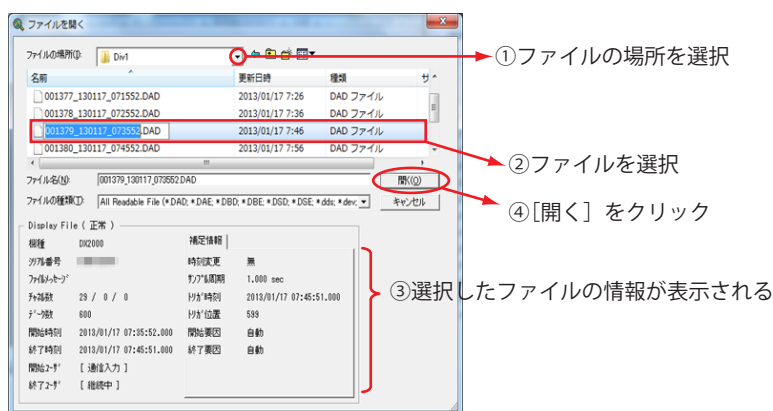
ビューアが起動します。

2. メニューの [ファイル] - [開く] を選択する、または [開く] アイコンをクリックします。



[ファイルを開く] ダイアログボックスが開きます。

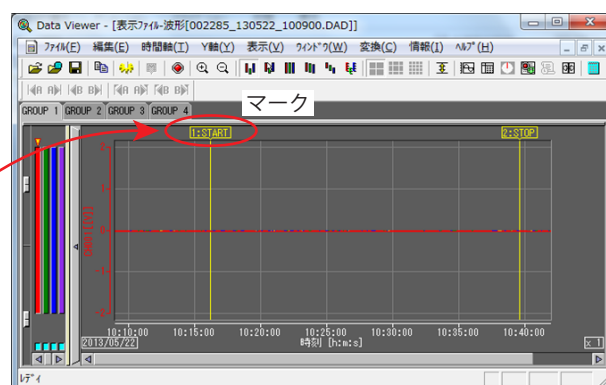
3. 表示させたいファイルを選択し、[開く] をクリックします。



波形が表示されます。

ビューアでトレンド波形を表示したとき、黄色い線でコメントが表示されている場合があります。(右の画面例参照)

これを「マーク」と呼び、記録計側で書き込んだ「メッセージ」を示しています。



DX のトレンド画面例



デジタル値表示に変更したいとき

操 作

1. メニューの [ウィンドウ] - [デジタル表示] を選択する、または [デジタル表示] ボタンをクリックします。

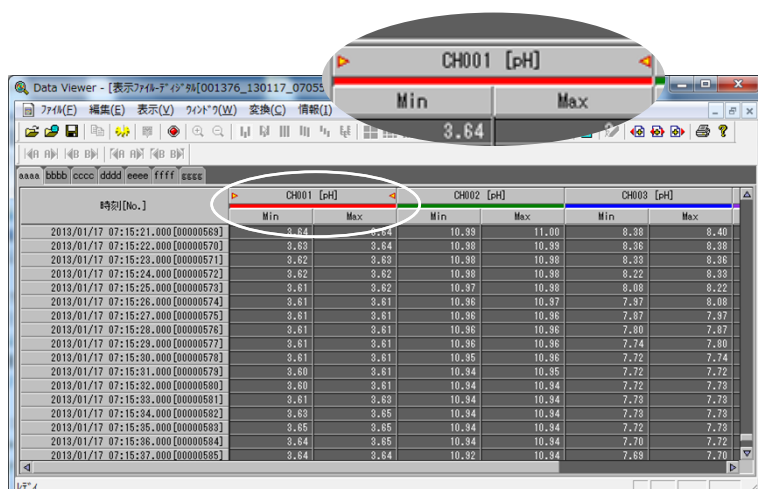


2. 波形表示に戻すには、[波形表示] ボタンをクリックすると戻ります。



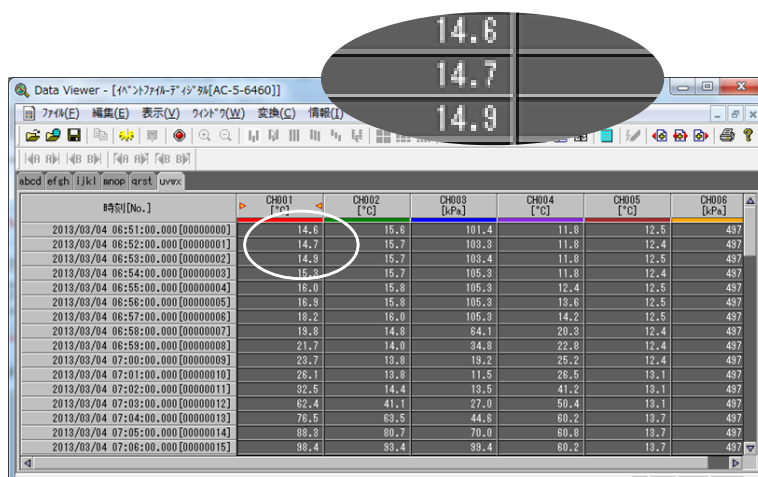
• MAXとMINについて

記録計側で**表示データ記録**において記録した場合は、サンプリング周期内の最大値 (MAX) と最小値 (MIN) を記録します。



• 瞬時データについて

記録計側で**イベントデータ記録**において記録した場合は、サンプリング周期ごとの瞬時データを記録します。

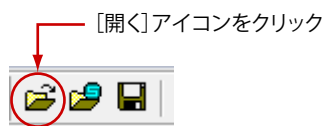


4. 連続したデータを接続して見たい

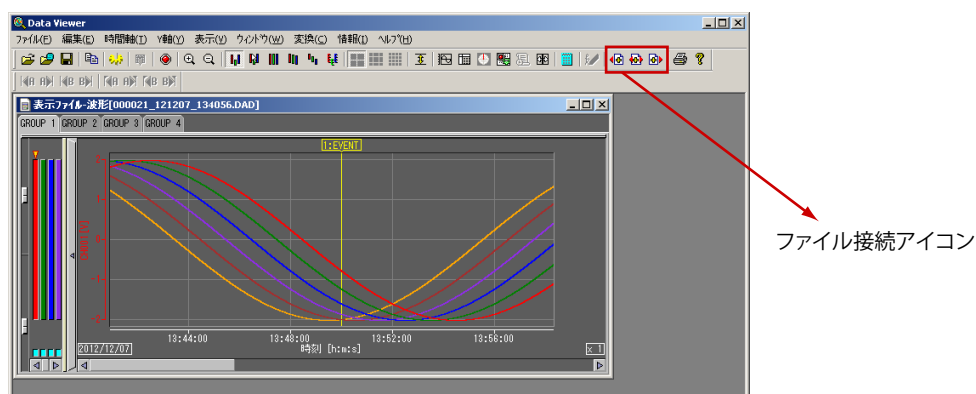
記録中にオートセーブや停電で分割したファイルは、接続ボタンでつなげて表示することができます。例えば、1日1ファイルの記録データファイルが連続して10日分ある場合、10個のファイルをつなげて連続した波形表示として見るすることができます。

操 作

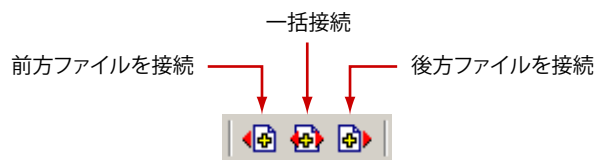
1. [ファイル] — [開く] を選択する、または [開く] アイコンをクリックします。



2. 接続の起点となるファイルを開きます。



3. ツールバーのファイル接続アイコンを使用して接続することができます。



[ウィンドウ] — [ファイル接続表示] で、ファイルを確認しながら接続することもできます。

• 接続できるファイルと接続できないファイル

[情報] — [ファイル情報] をクリックすると、以下のようなファイル情報が表示されます。項目の「開始要因」と「終了要因」で、ファイルが接続できるかどうかを確認することができます。

「手動」は人為的にキー操作により記録開始・停止したことを示しています。基本的に、開始要因が「手動」のファイルを始めとし、終了要因が「手動」のファイルまでを接続します。

過去、未来方向両方に接続可能なファイル

☒ 時刻変更	: 無
☒ 開始要因	: 自動
☒ 終了要因	: 自動
☒ 測定チャネル数	: 29

過去、未来方向両方に接続不可能なファイル

☒ 時刻変更	: 無
☒ 開始要因	: 手動
☒ 終了要因	: 手動
☒ 測定チャネル数	: 10

- このとき接続できるデータ数は、5,242,880 を超えない範囲（1s 周期なら 60.6 日）となります。
- 記録データファイルを実際に接続するわけではありません。表示上だけの接続です。

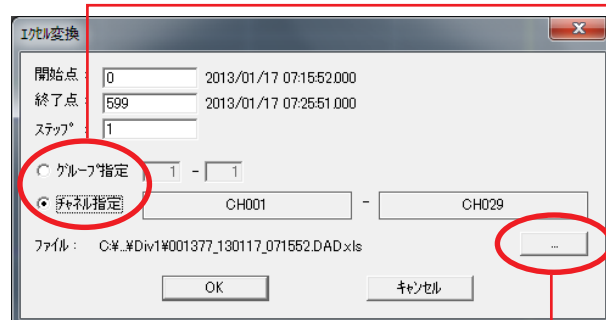
5. Excelファイルに変換したい

「ビューア」を使用して、記録データをExcelファイル形式へ変換することができます。

操 作

1. メニューの「変換」－「エクセル変換」をクリックします。

2. 下記のウィンドウで変換の方法を設定します。



表示グループ単位で変換するか、チャンネル番号単位で変換するか、方法を選択します。

変換先のフォルダを指定します。

• ステップについて

記録データの変換対象を指定します。1だと全部、2だと1個飛び、3だと2個飛びに変換し、記録データを間引いてExcelファイルに変換することができます。

ステップ=1の場合

1秒周期で記録したデータファイルを変換すると、1秒間隔になります。

30			Tag No.		pH-A01	
31			Unit		pH	
32	Date	Time	sec		MIN	MAX
33	2013/01/17	07:15:52		1 秒間隔	0.000	3.70
34	2013/01/17	07:15:53			0.000	3.70
35	2013/01/17	07:15:54			0.000	3.69
36	2013/01/17	07:15:55			0.000	3.68
37	2013/01/17	07:15:56			0.000	3.68

ステップ=2の場合

1秒周期で記録したデータファイルを変換すると2秒間隔になります。

30			Tag No.		pH-A01	
31			Unit		pH	
32	Date	Time	sec		MIN	MAX
33	2013/01/17	07:15:52		2 秒間隔	0.000	3.70
34	2013/01/17	07:15:54			0.000	3.69
35	2013/01/17	07:15:56			0.000	3.68
36	2013/01/17	07:15:58			0.000	3.68
37	2013/01/17	07:16:00			0.000	3.69
38	2013/01/17	07:16:02			0.000	3.69

ステップ=3の場合

1秒周期で記録したデータファイルを変換すると3秒間隔になります。

30			Tag No.		pH-A01	
31			Unit		pH	
32	Date	Time	sec		MIN	MAX
33	2013/01/17	07:15:52		3 秒間隔	0.000	3.70
34	2013/01/17	07:15:55			0.000	3.68
35	2013/01/17	07:15:58			0.000	3.68
36	2013/01/17	07:16:01			0.000	3.69
37	2013/01/17	07:16:04			0.000	3.67
38	2013/01/17	07:16:07			0.000	3.64

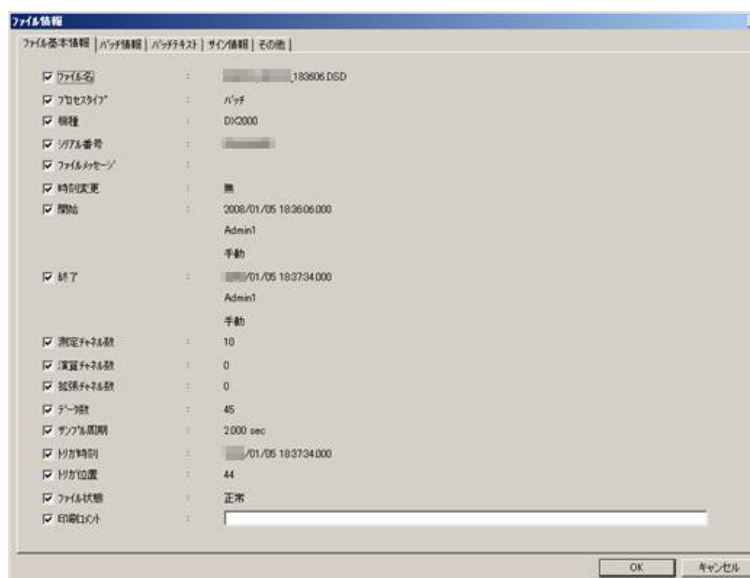
6. 波形表示を印刷したい

6.1 ヘッダ情報を選んで印刷したい

「ファイル情報」のチェックボックスをクリックすると、印刷するヘッダ情報を調整することができます。チェックの付いた項目が、ヘッダ部分に印刷されます。

操 作

1. メニューの「情報」－「ファイル情報」をクリックします。
ファイル情報ウィンドウが表示されます。



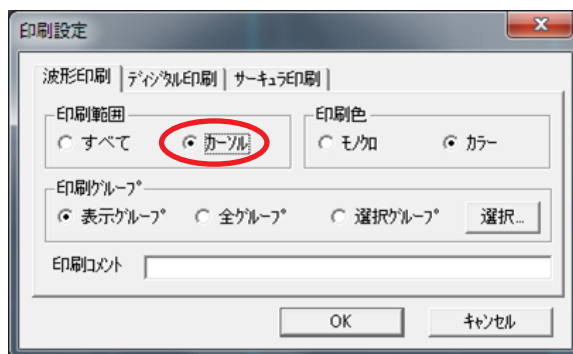
2. 項目のチェックボックスをクリックします。
チェックボックスのON/OFF が切り替わります。

6.2 波形表示を部分的に印刷したい

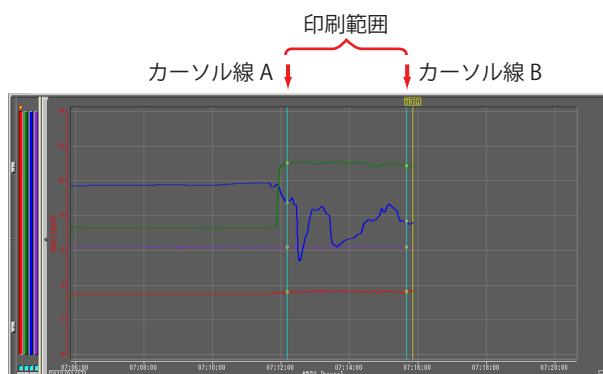
波形のある「部分」を範囲指定して、その部分を印刷することができます。

操 作

1. メニューの [ファイル] - [印刷設定] をクリックします。
2. 下記のウィンドウで [印刷範囲] に [カーソル] を選びます。



シアン色の 2 本のカーソル線で囲まれた範囲を印刷します。



3. メニューの [ファイル] - [印刷] で印刷します。
印刷前に、[ファイル] - [印刷プレビュー] で印刷イメージの確認ができます。

カーソル線の設定方法

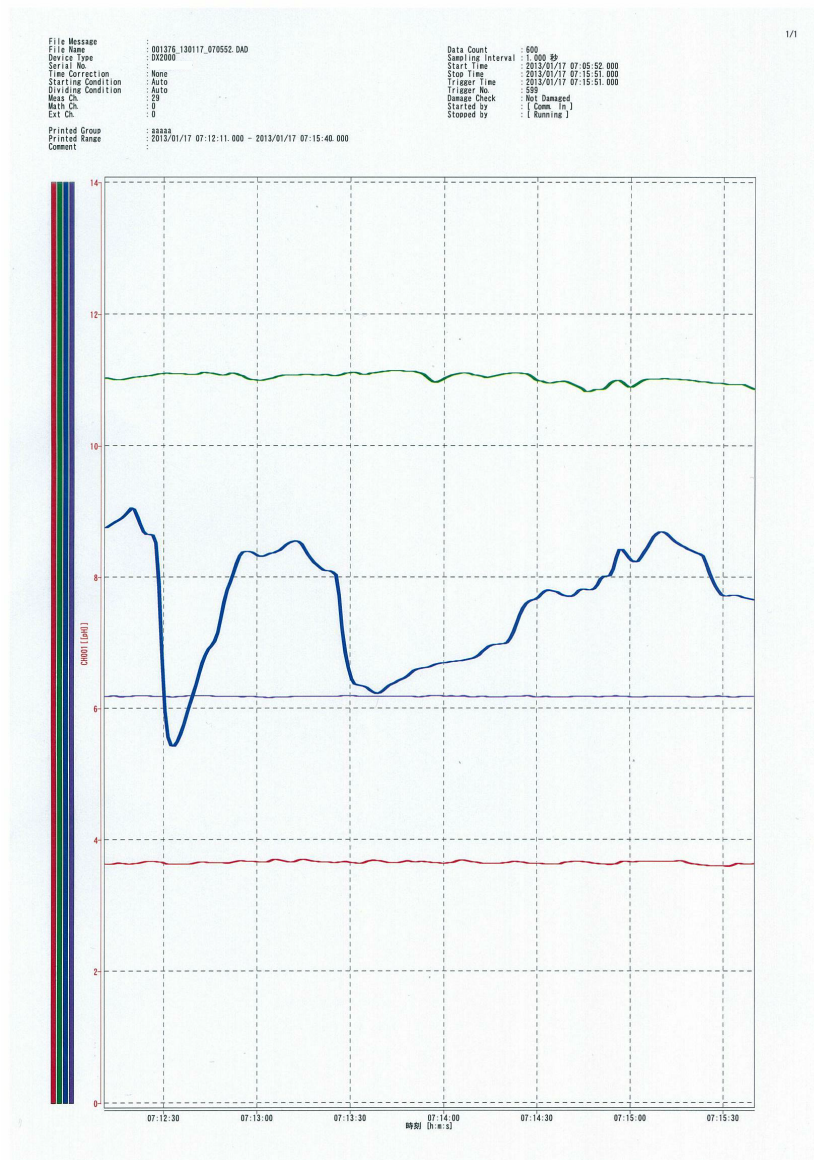
カーソル線 A の設定：グラフエリア上でマウスを左クリックします。

カーソル線 B の設定：カーソル線 A をドラッグし、マウスの左ボタンを放したところがカーソル線 B になります。

カーソルの消去：メニューの [編集] - [カーソル消去] を選択します。

部分印刷の例：▶ 6-3 ページ

印刷例



7. いつも同じ表示でデータを見たい

グループにチャンネルを割り付けたり、目盛間隔を変更したりして、表示方法を見やすいように編集することができます。

一度テンプレート保存をすると、それ以降は編集した内容で表示できるようになります。

操 作

1. メニューの「表示」－「詳細設定」をクリックします。
詳細設定画面が表示されます。



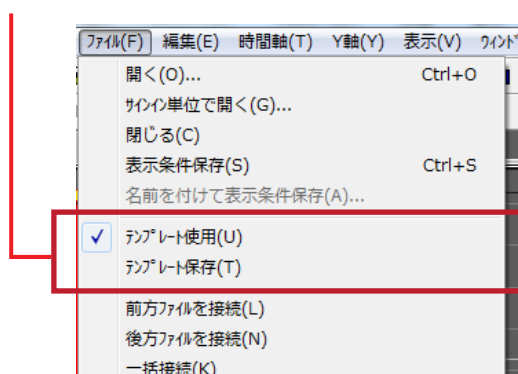
2. 例えば、「グループ 01 に ch 005、006、007 を追加して目盛間隔を 1.00 とする場合」、下記のように詳細設定画面で設定します。

01 タブ（グループ 01）で、下図の該当箇所をクリック、さらに目盛の数値を入力します。

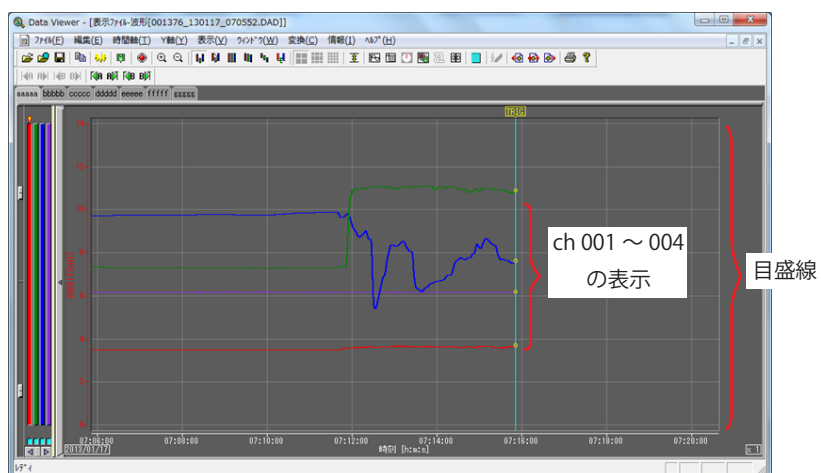


3. 上記グループ 01 の波形表示を、他のデータファイルでも同じように見たい場合はメニューの「ファイル」－「テンプレート保存」をクリックします。

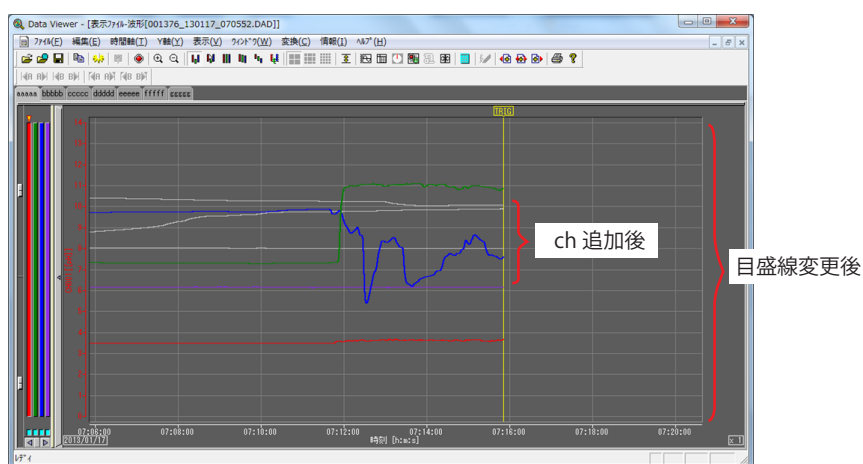
テンプレートを保存してから、「テンプレート使用」にチェックをいれます。



- 変更前の表示



- 変更後の表示



「[テンプレート使用]」にチェックを入れておくと、他の時間帯の記録データも同じ ch 割り付け、同じ目盛線で表示します。

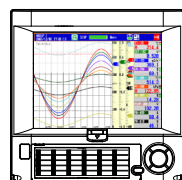
8. Ethernet接続で設定を受信したい

DAQSTANDARDの「ハードウェア設定」ソフトウェアを使用することで、PCとDX1000/DX2000シリーズ間で設定データを送受信することができます。

ここではEthernet接続で、PCとDXをローカル接続する例を紹介します。

接続例

IPアドレス:192.168.1.101



DX2000/DX1000

ストレートケーブル

HUB

ストレートケーブル

IPアドレス:192.168.1.10



PC

- ・ ハブを使わずに1対1で接続する場合は、クロスケーブルが必要です。
- ・ 既存のネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者の方にご相談ください。

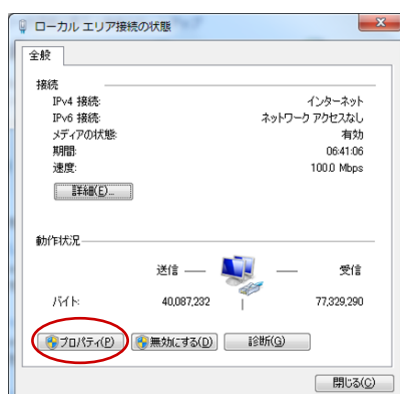
・ PC側の操作 IPアドレス設定

DAQSTANDARDがインストール済のPCで、DXと1対1でローカル接続する場合
PC環境：Windows7

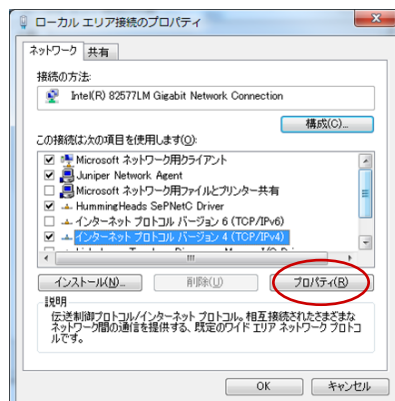
1. PCにIPアドレスを設定します。Windows [コントロールパネル] - [ネットワークと共有センター] を選択し、[ローカルエリア接続] をクリックします。



2. [ローカルエリア接続の状態] ウィンドウで [プロパティ] をクリックします。

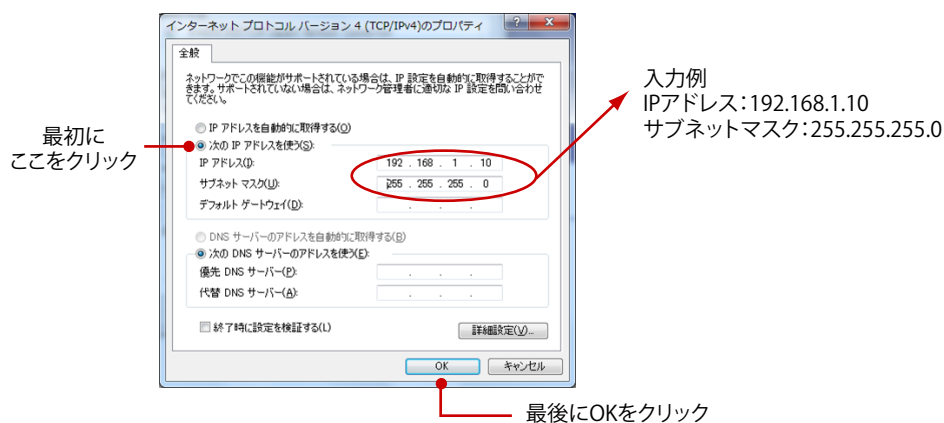


3. [ローカルエリア接続のプロパティ] で [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択し、下図のような選択した状態にします。
そのまま [プロパティ] をクリックします。



[プロパティ] ウィンドウが開きます。

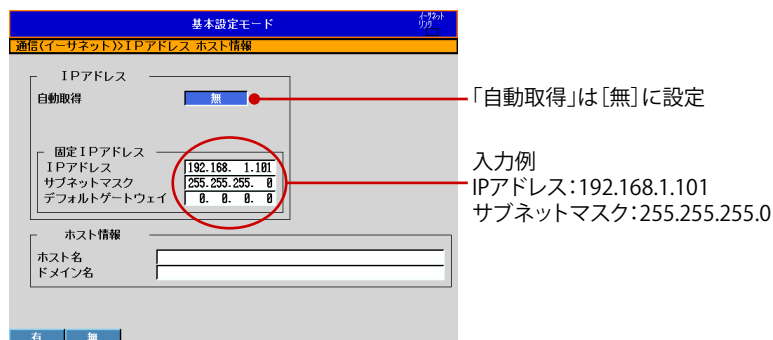
4. [プロパティ] の [次の IP アドレスを使う] を選択し、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。



・ 記録計側の操作 IPアドレス設定

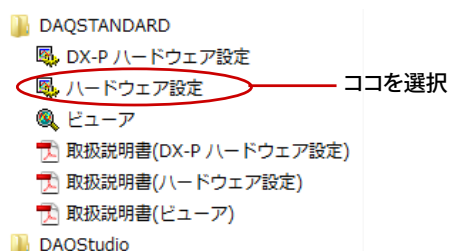
DX2000の場合の操作例です。

1. DX2000 に IP アドレスを設定します。
MENU キー (設定モードへの移行) > FUNC キー 3 秒押し (基本設定モードへの移行)
[設定メニュー] タブ > [通信 (イーサネット)] > [IP アドレスホスト情報]



• PC側の操作 ハードウェア設定で設定データを受信

1. [スタートメニュー] - [プログラム] - [DAQSTANDARD] - [ハードウェア設定] を選択します。

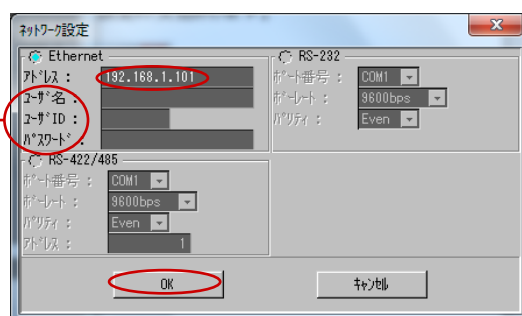


ハードウェア設定ソフトウェアが起動します。

2. メニューの [通信] - [受信] を選択します。



3. ネットワーク設定画面に記録計の IP アドレスを入力し、OK をクリックします。



- ユーザ名、ユーザID、パスワードについて
記録計側で、通信にログイン機能を設定した場合は必要な情報を入力します。
初期状態ではログイン機能を設定していませんので入力不要です。

4. 確認画面の OK をクリックします。



設定データを受信しました。



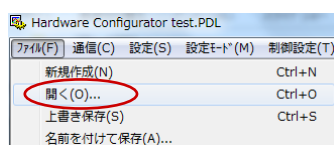
9. 1-5Vレンジの設定をしたい

「ハードウェア設定」を使用して、PC内の既存の設定ファイル*にレンジ変更を行う場合の例を紹介します。

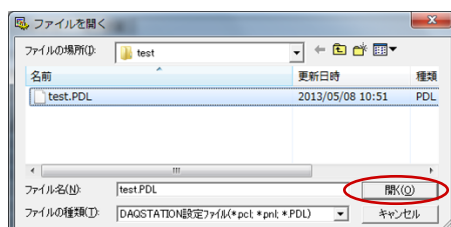
* 通信経由で設定ファイルを受信して変更することもできます。
 接続方法：▶「8. Ethernet 接続で設定を受信したい」

操 作

1. PC のハードディスク内の設定ファイルを呼び出します。メニューの [ファイル] → [開く] を選択します。

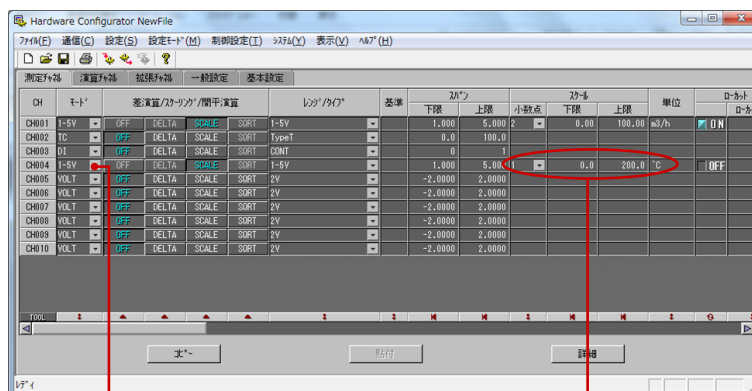


2. レンジ変更したいファイルを選択し、[開く] をクリックします。



設定ファイルが開きます。

3. チャンネル 4 に、1-5 VDC 信号を 0.0 ~ 200℃ レンジで設定する場合、下記のように変更を行います。



▼をクリックして[1-5V]を選択する

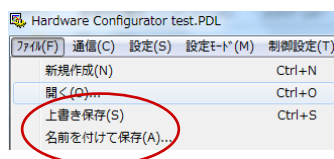
小数点:1
 下限:0.0、上限:200.0
 単位:℃

単位は半角英字と記号を入力します。「°」と「C」の2つの文字の組み合わせです。
 「°」は「^」に置き換えて「^C」と入力します。



日本語キーボード例「^」キー

4. 設定ファイルを保存します。「上書き保存」または「名前を付けて保存」でPCのハードディスクに保存します。



通信経由で直接、記録計へ設定を送信することもできます。

接続方法：▶「8. Ethernet 接続で設定を受信したい」



10. 表示データ記録の設定をしたい

「ハードウェア設定」を使用して、記録計本体の記録方法の設定ができます。

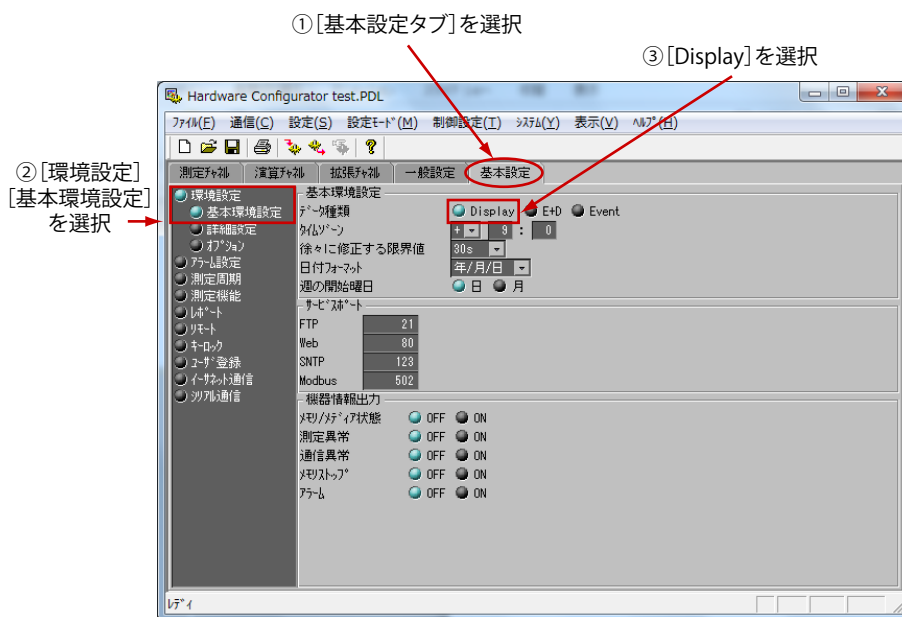
起動方法：▶ 8-3 ページ

ここでは例として、表示データ記録を以下のように設定します。

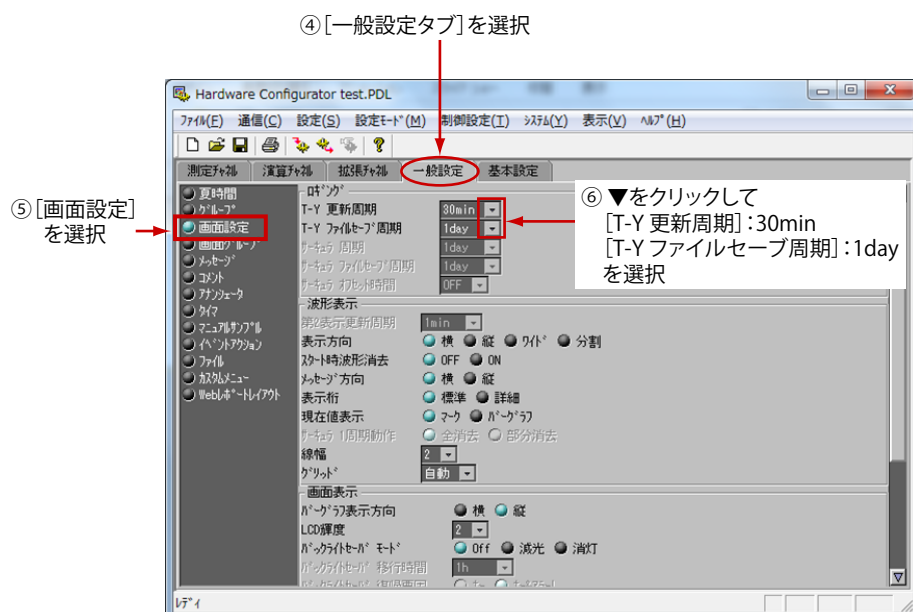
- ・ 1 分間ごとの最大、および最小データを記録（1 分サンプリング）
- ・ 1 日 1 ファイルのセーブ周期

操 作

1. 「ハードウェア設定」を起動させます。
2. [基本設定] タブを選択します。下図①～③のように設定されていることを確認してください。



3. 次に [一般設定] タブを選択します。下図④～⑥のように更新周期を設定してください。



1 分間ごとの最大・最少データを記録する場合、[T-Y 更新周期] を 30min にします。

T-Y 更新周期（トレンド更新周期）とサンプリング周期の関係：▶ 10-2 ページ（次ページ）

T-Y更新周期（トレンド更新周期）とサンプリング周期の関係

[T-Y 更新周期]を30minにすると、
1minサンプリングになる

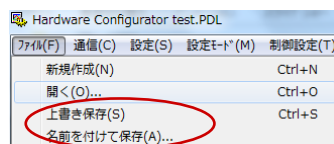
トレンド更新周期	5s ^{*1}	10s ^{*1}	15s ^{*2}	30s	1min
サンプリング周期	125ms	250ms	500ms	1s	2s
ファイルのセーブ周期の選択可能範囲	10分～12時間	10分～1日	10分～3日	10分～7日	10分～14日
トレンド更新周期	2min	5min	10min	15min	20min
サンプリング周期	4s	10s	20s	30s	40s
ファイルのセーブ周期の選択可能範囲	10分～14日	10分～31日	10分～31日	10分～31日	1時間～31日
トレンド更新周期	30min	1h	2h	4h	10h
サンプリング周期	1min	2min	4min	8min	20min
ファイルセーブ周期の選択可能範囲	1時間～31日	1時間～31日	2時間～31日	4時間～31日	8時間～31日

*1 DX1002、DX1002N、DX1004、DX1004N、DX2004、DX2008 で選択できます（リリースナンバー 3 以降）。

*2 DX1006、DX1006N、DX1012、DX1012N、DX2010、DX2020、DX2030、DX2040、DX2048 では高速モード時に選択できます（リリースナンバー 3 以降）。

4. 設定が終わったら、メニューの [ファイル] — [上書き保存]、または [名前を付けて保存] で設定ファイルを保存します。

また、通信環境があれば、設定を記録計に直接送信できます。



11. 指定時刻にデータファイルをセーブしたい

長時間の記録を保存する場合、指定時刻でデータファイルを分割すると管理しやすくなります。たとえば、毎日0時にファイルを保存するように設定すると、1ファイルが0時から始まり、0時で終わるファイルになります。

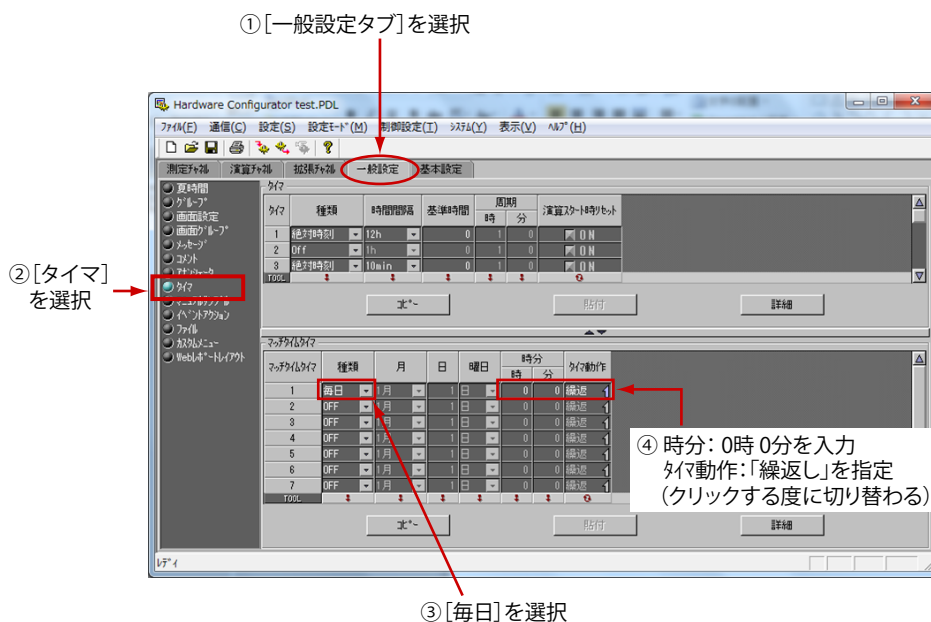
「ハードウェア設定」でイベントアクションの設定をすることで、このような保存が可能です。

記録の設定方法： ▶「10. 表示データ記録の設定をしたい」

・ マッチタイムタイマを毎日0時に設定する

操 作

1. 「ハードウェア設定」を起動させます。
2. [一般設定] タブを選択し、タイマの設定をします。下図の①～④のように設定してください。



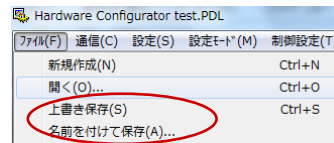
・ イベントアクションで表示データ保存を設定する

3. 次に保存の設定をします。下図の①～②の設定をしてください。



4. 設定が終わったら、メニューの「ファイル」－「上書き保存」、または「名前を付けて保存」で設定ファイルを保存します。

また、通信環境があれば、設定を記録計に直接送信できます。



記録の設定がイベント記録の場合は、アクションに「イベントデータ保存」が選択できます。

12. 流量積算を設定したい (/M1 演算機能付き)

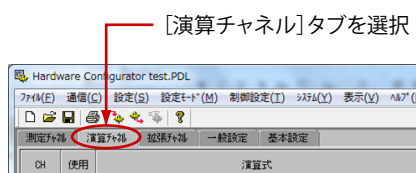
演算機能（付加仕様、/M1）付きの記録計で、流量の積算を設定したいときは演算式を使います。

積算の関数はTLOG.SUMです。

ここでは、測定チャンネル001の流量（0-100 m³/h）を積算する例を紹介します。

操 作

1. [演算チャンネル] タブを選択します。



このとき、[演算チャンネル] タブが表示されていない場合は、メニューの [システム] — [システム] — [システムの構成] ウィンドウで、記録計のオプション設定を確認してください。

演算機能を [有] に設定すると、[演算チャンネル] タブが表示されます。

[システムの構成] ウィンドウとは、お使いの記録計の機種、オプションに併せて設定をするウィンドウです。DX1000/DX2000 シリーズでは、形名の付加（オプション）仕様コードに「/M1」がついていることをご確認ください。

2. チャンネル 001 に演算式とスパンを設定します。

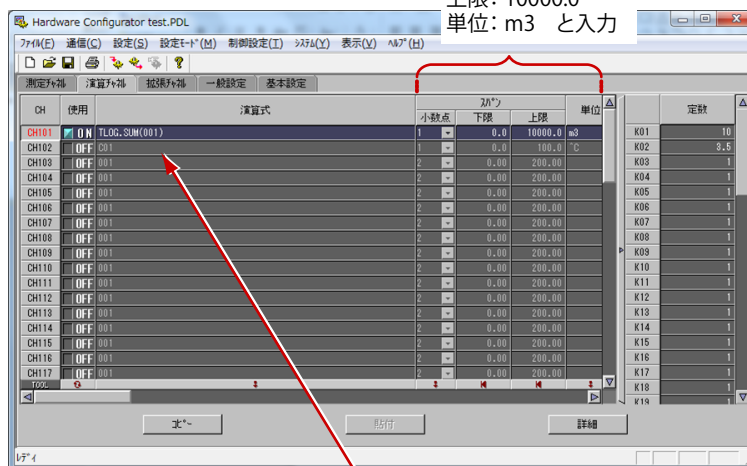
[スパン]

小数点: 1 を選択

下限: 0.0

上限: 10000.0

単位: m³ と入力

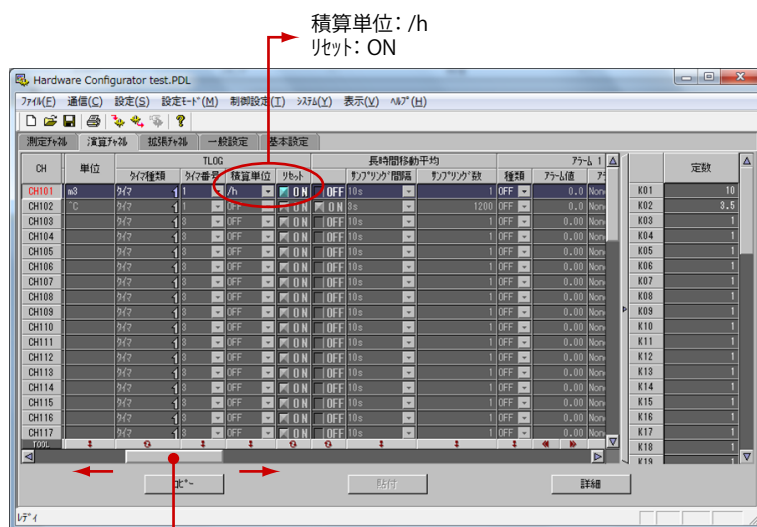


CH: [CH101] をクリック

使用: [ON] をチェック (クリックでOFF/ON切り替え)

演算式: TLOG.SUM(001) と入力

3. 積算単位の設定をします。
元の流量単位が m^3/h なので、[積算単位] は $[\text{h}]$ を選択します。また、積算値を
タイマを用いて定周期でリセットするには、[リセット] を [ON] にします。ここでは、
毎正時にリセットする例として [ON] にします。

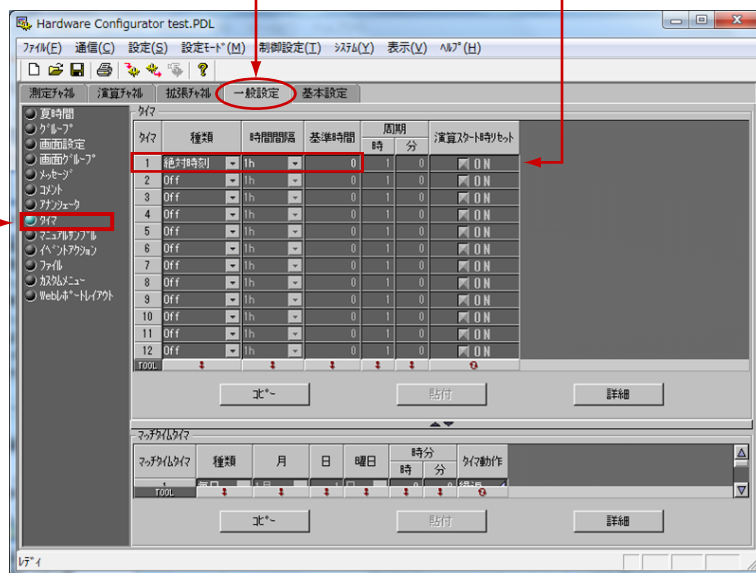


項目はスクロールバーで左右に移動

4. 積算リセットのためのタイマを設定します。
毎正時に TLOG.SUM を 0 にリセットするには、タイマを下記のように設定します。

- ① [一般設定] タブを選択
種類: 絶対時刻
時間間隔: 1h
基準時間: 0

- ② [タイマ] を選択



5. 設定が終わったら、メニューの [ファイル] - [上書き保存]、または [名前を付けて保存] で設定ファイルを保存します。

また、通信環境があれば、設定を記録計に直接送信できます。

13. データファイルにサインインしたい

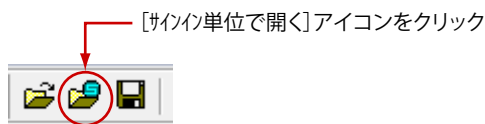
拡張セキュリティ機能付きのDX（DX1000/DX1000N/DX2000の/AS1オプション付き、またはDX100P/DX200P）で記録したデータファイルは、「ビューア」にてサインインすることができます。（3名までのサインインができます。）

ここでは、[サイン1]の権限を持つユーザがサインインする場合の例を紹介します。

操 作

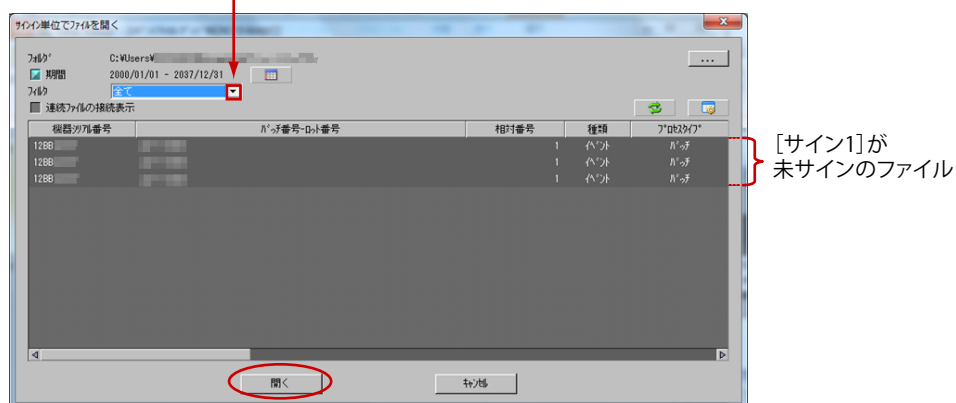
1. メニューの[ファイル]－[サインイン単位で開く]、または[サインイン単位で開く]アイコンをクリックします。

[サインイン単位でファイルを開く] ウィンドウが開きます。



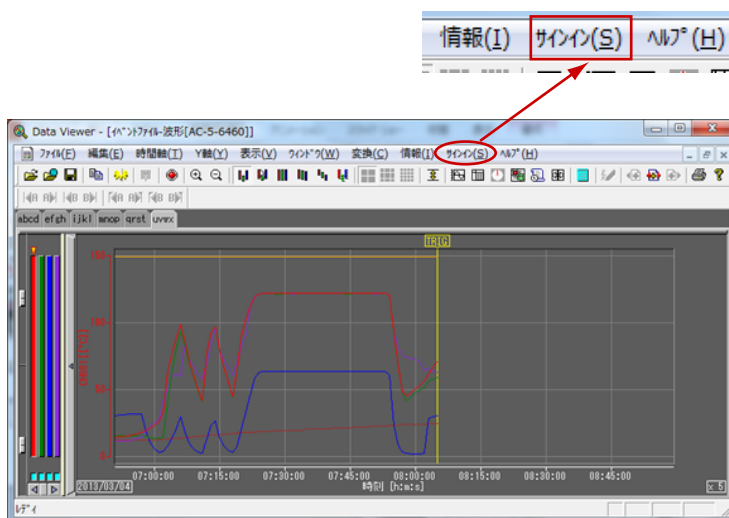
2. [フィルタ]のプルダウンメニューから[1 未サインイン]を選択します。
[サイン1]が未サインのファイルが表示されます。

▼をクリックして、[1未サインイン]を選ぶ

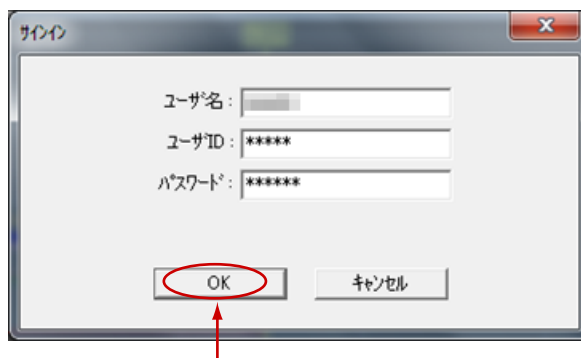


サインインするファイルをクリックして、[開く]

3. ファイルが開いたら、メニューの[サインイン]をクリックします。



4. [サインイン] ダイアログボックスでユーザ名、ユーザ ID（使用時のみ）、およびパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

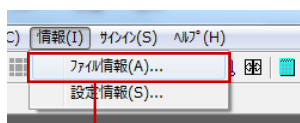


入力後[OK]をクリック

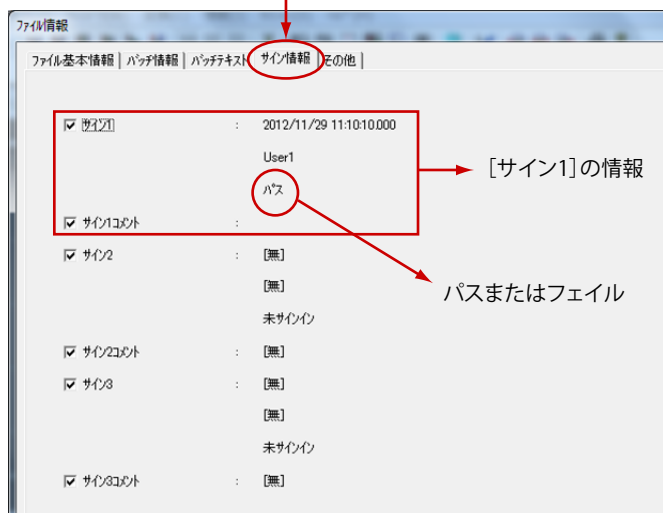
拡張セキュリティ機能付きの DX では、連続して 5 回失敗すると[サインイン]ダイアログボックスが閉じます。DX100P/DX200P の場合、連続して 3 回失敗するか、または認証が成功してもサインイン可能なサインインレベルがない時「サインイン」ダイアログボックスが閉じます。

・ サイン情報の確認

メニューの [情報] — [ファイル情報] で、サイン情報を確認することができます。



[サイン情報] タブを選択



改訂情報

資料名称 : DAQSTANDARD (DXA120) 操作ガイド
(レコーダ標準添付ソフトウェアご使用の手引き)

資料番号 : TI 04L01L07-02JA

2013年8月／初版

新規発行

2016年1月／2版

■ 著作者 横河電機株式会社
■ 発行者 横河電機株式会社
〒180-8750 東京都武蔵野市中町 2-9-32
